



第 438 号 平成 27 年 1 月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町 601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

新 春 を 迎 え て

会 長 林 鐘 声

謹んで初春をお慶び申し上げます。旧年中のご支援、ご協力を心から感謝申し上げますとともに、今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年、文科省からの「今後の学校給食における食物アレルギー対応について」という通知をうけて、京都市においても学校での管理を求めるアレルギー児童生徒に対する学校生活管理指導表の提出に基づく対応をとることになったのは、既にご承知のことと思います。この学校生活管理指導表は、平成 20 年日本学校保健会が発行した「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」の中に出てきたものです。京都市はこの提出が極めて少なく、他の様式の診断書や保健調査票を基に対応してきた経緯があります。そこで、4 月からは食物アレルギーとアレルギー性鼻炎が一体となった今までの生活管理指導表を改変し、学校現場の意見を取り入れて内容を一部修正した食物アレルギー単独の生活管理指導表で対応することになりました。配布前に変更点について改めて解説します。また、京都市教育委員会は昨年来、食物アレルギー対応検討委員会のなかで、学校での対応について検討を重ねてきており、これも近々に報告書が出てきます。

平成 28 年度より学校の健康診断において運動器に関する検診を行うとされています。今の子供たちは運動過多と運動不足の運動習慣の二極化のなかで、運動器に関する様々な課題が増えています。調査票を基に学校医が診断する対応が考えられているようですが、その詳細は今年中に明らかとなると思います。大文字駅伝選手には調査票を基とした整形外科医による検診が既に実施されていますが、どのような形をとるとしても、整形外科医との連携は今後ま

すまず重要となってきます。今年は京都でインターハイが開催される年でもあります。これをきっかけとして、運動クラブ選手のスポーツ外傷について予防教育が進むことに秘かな期待もっています。

今年 5 月には、京都府医師会学校保健委員会から「学校教育における健康教育のあり方について」の答申書がでます。学校医は健康教育の実施を強く求められる趨勢にあります。アレルギーや運動器以外にも、エイズ、性教育、感染症対策、薬物乱用防止、生活習慣病、ガン教育、発達障害、不登校、心の問題など多岐に亘る課題が目前にあります。「子供たちの明るい未来のために—学校医の新たな役割を考える」が昨年の全国学校保健・学校医大会のテーマでしたが、まさに、そのことを考えての今年一年となると思います。

最後に総会までの主な行事日程を示しておきます。

- 2 月 8 日 (日) : 第 29 回京都市小学生「大文字駅伝」大会
- 3 月 1 日 (日) : 第 63 回近畿医師会連合学校医研究協議会総会 (於京都市) —京都市の学校における食物アレルギー対応について発表
- 3 月 7 日 (土) : 校医・小児科医感染症講演会
講師 長崎大学病院
小児科学教室 森内浩幸教授
- 4 月 18 日 (土) : 平成 27 年度京都市学校医会総会
講師 京都五山送り火連合会
会長 川内哲淳住職

学校医会のより一層の充実と皆様方のご健康、ご多幸を心より祈念して、新年の挨拶とします。

新年のご挨拶

京都市教育委員会 体育健康教育室長 宮本昌昭

新年あけましておめでとうございます。平素は、子ども達の健康の保持増進並びに本市教育の発展に多大な御支援・御協力をいただき心から御礼申し上げます。

さて、感染症や生活習慣病、また心の健康など、子ども達を取り巻く健康課題は、ますます多様かつ深刻になっている状況です。とりわけ、食物アレルギーに関しましては、他都市における学校給食での死亡事案を受け、国においても、専門会議を立ち上げ議論を行い、その報告に基づき、あらためて食物アレルギー対応の必要性・重要性について、各自治体へ通知されたところです。

本市におきましても、昨年度から食物アレルギー対策検討会議を立ち上げ、学校医会からもアレルギー専門医でもある安野先生にも御参画いただきながら議論を行っており、本年1月には本市としての対応

指針を手引としてまとめ、その手引に基づいた学校給食等への対応を来年度から始めます。

手引においては、アナフィラキシーショックなどの緊急時に備えて、エピペンを使用することや救急車要請などを想定した、具体的な訓練を全教職員で行うことの必要性も示しており、そうした訓練の際には、学校医の先生方にも、御指導・御助言を賜ることになると存じますが、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

今後、林会長を中心とする学校医会の先生方との連携をより深め、子ども達のいのちと健康を守る取組を更に推進してまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。結びに、京都市学校医会の更なる発展と皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 松岡秀樹

新年あけましておめでとうございます。皆様方お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、大型台風による一昨年に引き続いての浸水が発生し、被害にあわれました方には心よりお見舞い申し上げます。

異常気象によるいろんな被害が出ています。化石燃料の使用による地球温暖化が関与しているという説があります。温暖化を齎さず、クリーンである上に安価であると喧伝され、政府も推進してきた原子力発電も、福島原発のメルトダウンを見ますと怪しい気がします。起こりえない、また想定範囲外として今まで手抜きをしていた事故に対する安全策を講じるために建設費用が高みますし、高々40年の運転のために数万年から数10万年の半減期を有す

る危険な放射性廃棄物の処理方法を考えねばなりません。

そのような事実に目をつむり、また火山学者の警告にも耳を貸さずに、目先の振興策に釣られて鹿児島県川内原発の再稼働が決められました。この後、周辺自治体の意向は勿論、国民の過半数が反対する再稼働が次々と行われようとしています。次世代どころかもっと後々の世代に危険のツケを背負わせるようなことをしても良いのでしょうか。子供の検診に行く度、そのようなことを考えさせられます。

それはさておき、児童の聞く、話す能力に強く関係する耳、鼻、咽喉の検診に携わる者としてはその責任の重さを噛み締めながら、業務に当たらなければならぬと思っています。以前ほど慢性中耳炎に遭遇することはなくなりましたが、より頻度が高く、

しばしば聴力低下をきたす点で決して無視できない疾患としての滲出性中耳炎があります。

また、アレルギー性鼻炎は有名なスギ・ヒノキ花粉症のみならず、イネ科の草花粉症が長期間にわたって存在しますし、ダニ虫体成分を主抗原とするハウスダストアレルギーも季節性があまりなく年間を通じて患児を苦しめます。さらに鼻の障害が耳、咽頭・喉頭にも悪影響を引き起こします。

また、口蓋扁桃の単なる肥大に対する扁桃摘出術は、余程の大きさでないと行われなくなりましたが、急性増悪を短期間に反復する習慣性アンギーナは発

熱、疼痛により、欠席することにより、学業の遅れをも来しますので手術加療を要することもあります。

時に見られる児童の自己主張のための大声による学童嗄声もひどいとコミュニケーションの妨げとなるかもしれません。

まだまだ他にも注意を要する点はありますが、主なものを述べさせていただきました。単に耳鼻咽喉科医のみでは、把握しきれない点多々あります。他科の先生方のご教示に頼らなければならない所多いと思われまふ。皆様方のご指導の程宜しくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

京都府眼科医会会長 佐々本 研 二

新年あけましておめでとうございます。東日本大震災以降、日本列島は地殻変動期に入ったと言われていましたが、まさにそのとおり、昨年は御嶽山の噴火、長野県北部の大きな地震、阿蘇中岳の噴火と続きました。また、地球温暖化に伴う記録的な集中豪雨が各地で発生、福知山の洪水では医療機関にも浸水被害が出ました。さらに、デング熱やエボラ出血熱など、世界的にも国内でも感染症の拡大が大きな問題となり、人間を取り巻く環境は悪化の一途をたどっているようにみえます。

加えて日本では少子化が急速に進み、これからの労働人口減少の中で増大する医療需要をどのようにして支えるのか、待ったなしの課題です。眼科のように以前から女性医師が多い診療科では女性医師にどのようにして働いてもらうのか、大きな課題になっていますが、医学部合格者の3分の1が女子で、産婦人科や小児科では20歳代の半数以上が女性医師という状況からすると、今後すべての診療科で女性医師が増えることとなります。女性医師の活躍なくしてこれからの医療は成り立ちません。出産・育児に伴って退職することなく仕事を続けていくことができるような環境を作る必要があります。それが男性医師の負担を軽減させることにもつながります。また、親族の介護の問題は男女を問わず、今後さらに

大きな問題になってきます。ワーク・ライフ・バランスという観点から我々も仕事を見直していかなければならないのではないのでしょうか。

さて学校現場では、12年前に色覚検査が健診の必須項目から除外され、色覚検査を受ける機会がなく自分自身が色覚異常であることを知らないまま進路を決めてしまった若者が、入学や就職に際して大きな壁に阻まれている例が出てきました。日本眼科学会と日本眼科医会がこの問題について行政に働きかけた結果、昨年文科省から希望者には色覚検査を行うように改めて通達が出されましたが、12年間という空白は非常に大きな影響を残しています。京都市ではこれまでも市立の小中学校の児童生徒を対象に色覚相談事業が行われており、全国的にもっとも先進的な地域です。色覚異常のために不当に差別され職業選択を制限されることは問題ですが、現実交通・消防・警察や自衛隊では集団の安全が優先されなければならない、ある程度制限があるのはやむを得ないことです。

子どもたちの健康を守り、同時にそれぞれの特質を見極めて本人の自覚を促すことも学校教育の現場で行われなければならない大切なことではないかと思っています。

本年もよろしくお願い致します。

文部科学大臣表彰のお礼

東山泉小学校医 長 村 吉 朗

この度金沢市で開催されました、第64回全国学校保健研究大会におきまして文部科学大臣表彰を受賞致しました。これも皆様方のお支えがあったのと考え、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

当日大会の冒頭に学校医51名、学校歯科医35名、学校薬剤師21名他の表彰が行われました。この賞を受けるため金沢に向かうサンダーバードに乗ったのですが、北陸トンネル手前の駅で突然停車し、「乗務員連絡のためしばらく停車します」との報告がありました。その後「先行車がトンネル内で故障した

ため30分程かかります」に換わり、最終的には1時間半の停車となりました。何とか式典には間に合うことが出来ましたが、「これはやはり僕に罰が当たったなぁ」と本当に反省致しました。このようにまだまだこの賞にふさわしくない私ですが、もらってしまえばこちらのものであります。後は、今後徐々にこの賞にふさわしくなるよう努力致す所存でありますのでお許しいただきますようお願い申し上げます。本当に有り難うございました。

第45回全国学校保健・学校医大会 第4分科会【耳鼻咽喉科】に参加して

耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一

平成26年11月8日に石川県金沢市に於いて開催されました。

当日、10時から12時まで例年よりは多い12の演題が出されて熱心な討議が行われました。ここでは演題のみに留めますが、検診の現状、検診に参加する医師数、診断基準の違いなど各市町村により差があるなど感じました。

なお抄録集をご希望の方は下記のホームページにアクセスしてください。

第4分科会【耳鼻咽喉科】

座長 日本耳鼻咽喉科学会石川県地方部会

会長 吉崎 智一

日本耳鼻咽喉科学会石川県地方部会学校保健委員会

委員長 岩脇 淳一

1. 新潟県における耳鼻咽喉科健診の実態調査結果
新潟県医師会 大滝 一
2. 川崎市に置ける耳鼻咽喉科定期健康診断の疾患別統計
神奈川県医師会 吉川 琢磨
3. 大分県耳鼻咽喉科学校保健の現状と課題
大分県医師会 分藤 準一
4. 金沢市教育支援委員会のあり方について
～耳鼻咽喉科の立場から～
石川県医師会 鹿瀬みづき

5. 特別支援学校教諭の耳鼻咽喉科学校医に対する
摂食・嘔下についてのQ&A

石川県医師会 上出 文博

6. 教育現場における一側性難聴児への配慮について
神奈川県医師会 朝比奈紀彦

7. 軽度から中等塵難聴児の補聴器装用状況

神奈川県医師会 寺崎 雅子

8. 一側性高度難聴児の雑音負荷時における語舌聴
取能と言語発達 徳島県医師会 島田 亜紀

9. 新潟県の学校健診における書声言語異常検診への
取り組み 新潟県医師会 長場 章

10. 静岡県の学校健診における「音声・言語異常検
診」に関するアンケート

静岡県医師会 鳥居 智子

11. 学童期における言語機能障害
～病院データからみる現状と課題～

大阪府医師会 愛場 庸雅

12. 特別支援学校における聴力検査の検討

徳島県医師会 宇高 二良

抄録集を学会ホームページ <http://www.ishikawa.med.or.jp/school-45/>
に公開いたしました。

下記のIDとパスワードを入力してダウンロードして下さい。

ID : school45

パスワード : kanazawa